

「不幸な出会い」が、「有り難い出会い」になるとき

著者自身も、その人生において、当初、「不幸な出会い」と思えたものが、次第に、「意味のある出会い」であったと感じられるようになり、いつか、「有り難い出会い」であったと思えるようになった体験が、いくつもある。

また、著者の若き日のエピソードを語ろう。

これは、拙著『仕事の思想』にも記したエピソードであるが、やはり、就職したばかりの新人社員の頃、ある企業に新規プロジェクトの企画提案に行った。

前の晩、遅くまでかけて作成した企画書を持ち、先方の企業の部長を訪ね、会議室での企画の説明をした。自分なりに、自信のある企画であった。

しかし、その企画を説明し終わるや、その部長が、「こちらは、こんな企画を要求しているのではない！」と、突然、怒鳴り始めた。

その後のことは、頭の中が真っ白になり、あまり覚えていない。

その場は、上司の課長がとりなしてくれたが、自分は、ささやかな自尊心を打ち砕かれ、打ち拉がれた敗残兵のような心境で、その会社を出たことを覚えている。

横断歩道を渡っているとき、見かねた同僚のA君が、声をかけてくれた。

「田坂君、君の企画は、良い企画だったと思うよ・・・」

ただ、あの部長さんが、それを理解してくれる力が無かったのだよ・・・」

その瞬間、その声にすがりたい自分がいなかったと言えば、嘘になる。

「そうだよ、あの部長、何も分かっていないんだよ・・・」と言いたくなる自分がいなかったわけではない。

しかし、そのとき、自分は、心の中から振り絞る思いで、A君に、こう言った。

「有り難う・・・。しかし、やはり、自分は、

あのお客様が納得してくれる企画書が書けなかったのだよ・・・」

この日が、自分のプロフェッショナルとしての歩みの原点となった。  
それから三五年の歳月を歩み、いま、振り返って思う。

あの部長の厳しい言葉のお陰で、自分は、プロフェッショナルの道を歩めた。  
あの部長の厳しい叱責のお陰で、自分は、大切なことに気づかせてもらった。

いま振り返れば、あの頃の自分には「無意識の傲慢さ」があった。

自分では気がついていなかったが、自分の企画に独りよがりな自信を持ち、この企画を顧客は必ず採用するだろうという思い上がりがあった。

それゆえ、あの部長は、目の前の若いビジネスパーソンの心の奥にある「無意識の傲慢さ」を感じ取ったのであろう。礼儀正しく、丁寧に語っている言葉の奥に、「密やかな驕り」を感じ取ったのであろう。

そして、あの部長は、鬼のような姿を通じて、私に、そのことを気づかせてくれた。

そのお陰で、今日の自分が、ある。

### どのような出会いにも、必ず、深い意味がある

著者は、今日まで、こうした体験を重ねてきた。

そして、いつか、一つの思いが、心に定まってきた。

「不幸な出会い」と思えるものにも、必ず、深い意味がある。

それは、ときに、自分が一人の人間として成長するための、大切な体験を与えてくれる。  
そして、その真実に気がついたとき、我々の人生の「風景」が変わる。

日本語には、昔から、そのことを教えてくれる言葉がある。

例えば、「荒砥石」。

「あの上司は、いま振り返れば、自分にとっての『荒砥石』だったな。  
毎日、仕事のことで、ごりごりと研がれたような気がするよ。」

でも、お陰で、自分という人間の角が取れていったんだ・・・。  
自分は、私の強い人間だったからな・・・」

著者は、若き日に、人生の先輩たちから、そういった言葉を、何度か耳にした。そして、幸い、著者自身も、そういう「荒砥石」と思える人と出会い、その人との葛藤と格闘を通じて、自分の心の中の「小さなエゴ」に気づくことができた。そして、人間としての成長の道を歩ませて頂いた。

では、「不幸な出会い」と思えるものにも、必ず、「深い意味」があるのであれば、我々は、どのようにすれば、その「深い意味」を知ることができるのか？

そのために、我々が、必ず行うべきことがある。

その出会いに「正対」すること。

3

すなわち、その相手に出会ったという「事実」に、心の中で「正対」することである。

第四の技法において、人間関係がおかしくなるのは、その相手に「正対」できなくなるからであると述べた。

同様に、人生の解釈がおかしくなるのは、その事実「正対」できなくなるからである。

なぜなら、我々は、ともすれば、人生の出会いを、無意識に、「幸福な出会い」と「不幸な出会い」に分け、前者の出会いにのみ意味や価値を認め、後者の出会いには意味や価値を認めない傾向があるからだ。それゆえ、「不幸な出会い」と感じるものについては、「出会った」という事実「正対せず、その意味や価値を正面から考え」ということを避けてしまう。

しかし、ひとたび、我々が、その「不幸な出会い」に心で正対し、その意味や価値を見つめるならば、不思議なほど、我々の心の奥深くから「人生の解釈力」とでも呼ぶべきものが湧き上がってくる。

その「人生の解釈力」とは、人生で起こった出来事や、人生で与えられた出会いの「意味」を解釈する力のことである。

3

そして、もし、我々に、その「人生の解釈力」があれば、「不幸な出会い」と思えるものに対しても、先ほどの問いに、自分なりの「答え」を見出していくことができる。

この人との出会いを通じて、そして、この苦痛な体験を通じて、

いま、自分が人間として成長するべき課題は何か？

いま、何を学べと言われてしているのか？

いま、何を掴めと言われてしているのか？